

子育て世帯タウンミーティング 開催報告

1. 開催日時

- (1) 令和8年6月3日(水)11:00-12:00
- (2) 令和8年6月5日(金)13:30-14:30
- (3) 令和8年6月5日(金)19:00-20:00

2. 参加者

合計 約 20 名

3. 参加者から出された主な意見・提案等とそれに対する村の回答

(1)保育園に関すること

- 保育園の待機児童を解消してほしい。
→村としても解消したいと考えていますが、保育士の確保が難しい状況です。随時募集や移住する保育士への支援金制度の創設、アプリ導入による負担軽減など、各種待遇改善に取り組んできているところですが、更なる待遇改善を推進してまいります。
- 保育料の算定基準について、白馬村は国に準じて在籍園児のみを多子世帯軽減の対象としているが、長野市のように在籍園児以外の子ども(小中学生等)も算定に入れるようにしてほしい。
→アンケートやこういった場での対話では、保育料よりも医療費の無償化を望む声が多いように感じています。限られた予算で何を優先するかという判断になりますが、対象となる園児の数や必要な予算などを把握して検討したいと思います。
- 保育園関係の入園手続き等について、見落とすことがないよう文書だけでなくLINE等も活用して周知してほしい。
→保護者の皆様が必要な情報を見落とすことなく確認できるよう、文書による周知を基本としながら、LINE等のデジタルツールも活用し、情報提供に努めてまいります。

(2)医療費に関すること

- 医療費を無償化してほしい。1 医療機関あたり 500 円／月もありがたいが、皮膚科や耳鼻科、眼科など村外への通院も多く、交通費などもかかる。子どもが多いほど負担も大きくなるため、特に多子世帯は支援してほしい。

→財源を確保・調整する必要がありますが、できるだけ早く実現させたいと思います。

(3)子育て支援施設・遊び場に関すること

- 子育て支援ルームの「なかよし広場」を午後も開放してほしい。
→現在は子育て支援ルームを建替中で開設時間も限られますが、新たな施設ができた際には放課後の居場所も含めて検討したいと思います。それまでの対応については、引き続き検討してまいります。
- 小さい子どもが安心して遊べる場を整備してほしい。積雪期や雨天時、夏の熱中症対策なども考えると屋内が望ましい。
→公園の整備は多くの方が望んでいるため、新たな子育て支援施設で可能な限りニーズに応えたいと思います。大型の遊具を備えた屋内広場のようなものは想定していませんが、一定規模の屋内の遊び場については検討しています。
- 新たな子育て支援施設について、どのような施設になるのか知りたい。また、工事の進捗状況を教えてほしい。
→アンケートや子ども・子育て会議等で出された意見を踏まえて機能やデザインを設計事業者と協議しながら検討してきました。大きな室内遊具を備える予定はありませんが、小さい子どもが遊べる遊具を備え、絵本が読める空間やミニキッチンなども設置予定です。園庭も整備し、年齢層が低い子が使える遊具や芝生広場も設ける予定です。開所は令和10年夏頃を予定しています。
- 新たな子育て支援施設が完成するまでの間の子どもの遊び場等についても検討してほしい。また、新たな子育て支援施設だけでなく、複数の場所に子どもが遊べる場所を整備してほしい。保育園の園庭・遊具を開放してもらえないか。
→財政的な事情から少しずつになってしまいが、増やしていきたいと考えています。保育園の園庭開放については、遊具利用や門の開閉など安全面も含めて検討したいと思います。

(4)図書館に関すること

- 新しい図書館は先送りになってしまったが、今の図書館や新たに建てる子育て支援施設で、蔵書の充実や居場所的な機能なども含めて検討してほしい。
→図書館は現在の施設で改善できることは取り組んでいきたいと思います。子育て支援施設については、多世代交流の拠点という位置付けもあるため、様々な人が気軽に立ち寄れる場所にしていきたいと考えています。
- 現在の図書館は蔵書も学習スペースも少ない。グリーンスポーツの森など、神城地区の子どもたちも行きやすい場所に分館・分室を設けることなどはできないか。
→グリーンスポーツの森は魅力的な場所であるため、公園機能も強化して良い場所にしていきたいと考えています。分館・分室といった考えはありませんでしたが、考えてみたいと思います。

(5)学校教育について

- 小学校の統廃合について、村が考えている方向性を聞きたい。統合する場合は、少人数でも良いのでこういったミーティングを複数回開催してほしい。
→以前出された答申では、統合・2校存続のどちらの可能性も残す内容でした。令和12年頃には大規模改修が必要となるため、それぞれの場合の財政シミュレーションをしています。財政負担と保護者や地域住民の意向を踏まえて最終的に決定したいと考えています。
- 不登校の児童・生徒や保護者に対する支援を検討してほしい。
→教育支援センター(中間教室)を設置して、教室に行きにくい児童が通えるようにしていたり、子ども第3の居場所の運営支援を実施したりしていますが、更なる支援を検討してまいります。現状では不登校の子を持つ保護者同士のネットワーク構築といった支援はできていませんが、今後は保護者同士のつながりづくりなどを検討したいと思います。
- 多国籍・多文化であることを活かして、保育園や小中学校で英語教育を充実させられないか。イベントなどでもそういった要素を入れてほしい。
→第5次総合計画では、「多様であることから交流し学びあい成長する村」を基本理念にしていますが、第6次総合計画でもその考えは継承しています。中学校では今年度から英検等の受験料の補助制度を創設し、AIを使った英会話アプリも実験的に導入しています。他文化に触れたり交流したりすることができるイベントもありますが、地域の魅力としてより伝わるよう検討したいと思います。

(6)暮らし・住宅・イベント等について

- 白馬村が目指す「理想的な住民像」についてどう考えているか。また、若い子育て世帯の定住に向けて取り組んでいる子育て支援に関する具体的な事業や取り組みについて教えてほしい。
→村民アンケートやワークショップ等の意見を参考に、第6次総合計画の基本理念を「共に生き 豊かさを育む 支え合いと幸せがめぐる Best Living Village」としました。自然や人と共に生き、住民同士が支え合う姿が理想であると考えています。
子育て世帯の定住に向けて、子育てしやすい環境づくりを行政の重点項目としています。スクールバスの通年運行化、あそびまなびフェスやウォータースポーツフェスなど子どもが楽しめるイベントの開催、各種お祝い金や給食費負担軽減など経済的な支援、新たな子育て支援施設の整備等にも取り組んでいます。また、「こどもの笑顔応援条例」を制定し、「こどもの最善の利益」をすべての施策の中心に据える理念を掲げました。子育てに優しくない地域に将来はないと考えており、できることを着実に進めていきたいと思っています。
- せっかく白馬で子育てをするので、親子でスノースポーツを楽しめる環境を整備してほしい。子どもとリフト券は対応いただいているが、リフト券が高くなり親のチケット代の負担が大きい。また、駐車場の混雑等もあるため、村民が優先的に利用できる駐車スペースなども確保できないか。
→親子券のようなものもできると思いますが、リフト会社との協議が必要になります。スキー産業を将来的に維持していくためには村民がスキーを楽しむことも大切であるため、事業者と相談したい

と思います。

- 地価や家賃が高くて村内に住めず、村外に転出する子育て世帯も多い。村としてはどう考えているか。
→民間の不動産市場に介入するのは難しいですが、元々住んでいた人の生活に負荷が掛からないようにしたいと考えており、県や国には様々な要望をしており、村でも出来る施策を検討・実施してきています。無秩序な開発や投機目的の短期転売等の取引を抑えるため、長野県には国土利用計画法に基づく監視区域に指定してもらうよう強く要望しています。
また、村でできることとして、官民連携による定住促進住宅の整備に向けて、建設候補地の公募を開始しました。その他、家賃補助なども検討したいと思いますが、慎重に条件を設定する必要があります。
- 空き家バンクの運用状況はどのようになっているか。
→相談を受けることは増えてきましたが、取扱物件数はまだ少ない状況です。移住したい人の情報を紹介する「さかさまバンク」についても掲載希望が増えてきています。
- 物価が高くなり、家計の負担も増えている。子育て世帯を対象にオムツ無料券や食事券を提供してもらえないか。
→事業者にも協力していただき、アルプス Pay を活用した村民割引を普及させていきたいと思っています。
- 長野に行くバスの料金が高く、負担が大きい。
→アルピコ交通には住民に配慮した価格について以前より要望してきており、アルプス Pay を活用して村民認証者を対象にポイント還元して割引する仕組みを検討していると伺っています。
- アルプス Pay の村民認証について、マイナンバーカードを持っていない人もできるようにしてほしい。
→一般的なアプリ等の本人確認の手段として、運転免許証を撮影・アップロードする方式もありますが、偽造等の課題があり廃止されることになっているため、現状はマイナンバーカードしか対応できない状況です。健康保険証や運転免許証との一体化、コンビニでの住民票等の発行、e-TAX など使える機能も増えており、国もマイナンバーカードの普及に努めているため、村としてもできる限り発行をお願いできればと思います。
- 冬季の治安や交通マナーの悪さが目立つ。観光と暮らしのバランスについて、どう考えているか。
→他の観光地でも課題となっていますが、特に冬季は様々な問題が生じています。国として訪日観光客をさらに受け入れていく方針を出している中で、村としては入村制限などが出来る地理的状况ではないため、住民への負担を抑える施策に取り組んでいます。住民生活あってこそ観光だと考えています。マナー条例は改正しましたが、無秩序な開発や不動産取引等の課題についても有識者を交えて議論したり、国や県に協議・要望しています。住民にかかる負荷を抑制して、村民が安心して快適に暮らせる観光地を目指しています。

- ウォータースポーツフェスは楽しいイベントなので開催数を増やして続けてほしい。
→白馬村はイベントが多いことから開催数を増やすことは現段階では難しいですが、継続して開催し、皆さんに楽しんでいただきたいと思います。
- 直接要望するのは精神的にも時間的にも難しいが、今回のようにオンラインで複数会の機会を設けてもらえるとありがたい。
→今後も開催していきたいと考えています。